

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第22週 (5/30-6/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		22週	21週	20週	19週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	5/30-6/5	5/23-5/29	5/16-5/22	5/9-5/15	5/23-5/29
			22週	21週	20週	19週	21週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	1 0.06	0 0.00	5 0.04
	咽頭結膜熱	↓	16 0.89	21 1.17	10 0.56	8 0.44	96 0.72
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		60 3.33	60 3.33	40 2.22	52 2.89	540 4.03
	感染性胃腸炎		146 8.11	146 8.11	119 6.61	127 7.06	742 5.54
	水痘		9 0.50	16 0.89	4 0.22	18 1.00	83 0.62
	手足口病		3 0.17	1 0.06	0 0.00	3 0.17	9 0.07
	伝染性紅斑		2 0.11	6 0.33	2 0.11	4 0.22	49 0.37
	突発性発しん		19 1.06	23 1.28	15 0.83	13 0.72	82 0.61
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		4 0.22	0 0.00	1 0.06	0 0.00	7 0.05
	流行性耳下腺炎	○	20 1.11	11 0.61	8 0.44	8 0.44	131 0.98
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	0 0.00	1 0.04	6 0.21	33 0.15
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	7 1.40	7 1.40	4 0.80	36 1.03
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体等の検出等	結核	男性	80歳代	病原体等の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	結核	男性	100歳代	病原体等の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	結核	女性	20歳代	画像診断
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	結核	女性	90歳代	病原体等の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査	アメーバ赤痢	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	画像診断等	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出

・第22週は、結核12件(106)、アメーバ赤痢1件(4)、梅毒1件(11)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第22週のコメント

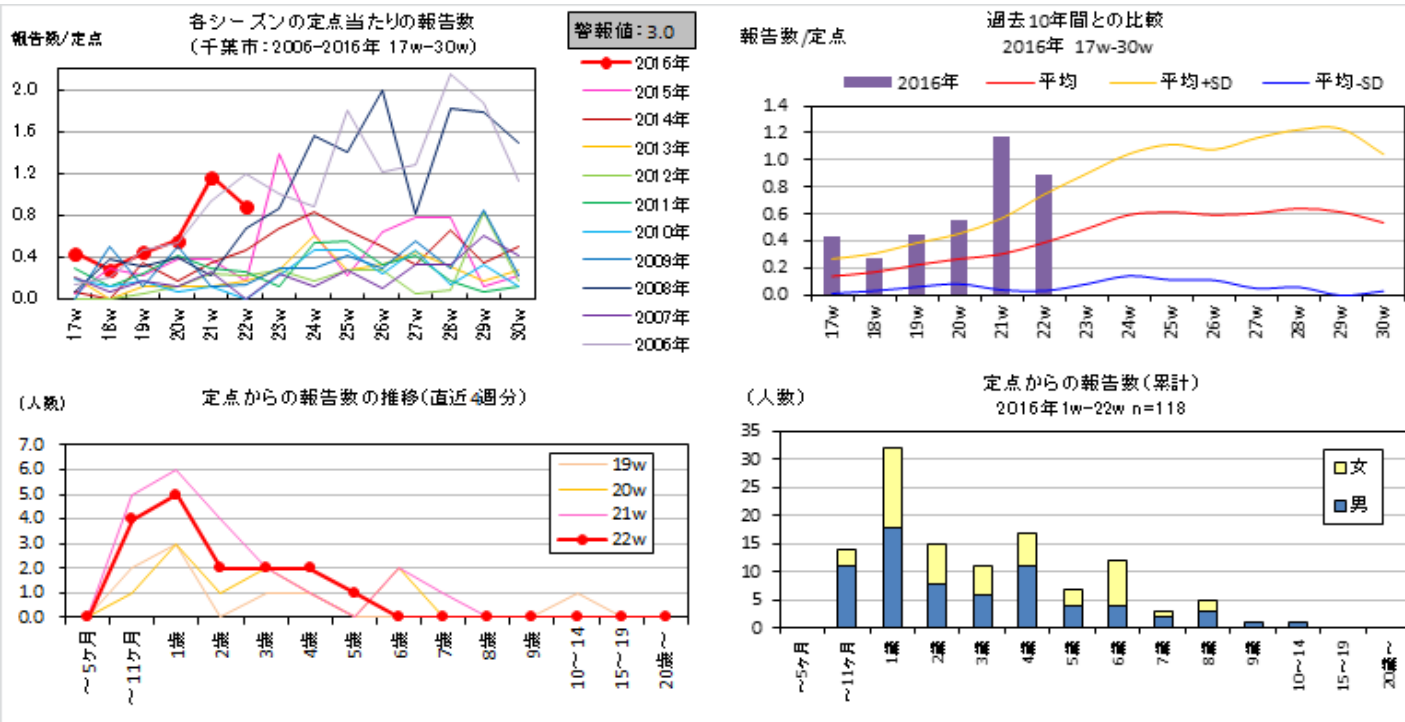
＜咽頭結膜熱＞前週から減少し0.89となった。過去10年の同時期と比べると多い。

＜流行性耳下腺炎＞前週から増加し1.11となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

<咽頭結膜熱>

全国レベルの第21週は過去9年の同時期と比べると最多となりました。都道府県別では、島根県、佐賀県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第22週は前週から減少し0.89となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区(2.0/定点)で最多で、同区の6~11か月で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第22週までの累積報告数(n=118)によると、性別では男性が58.5%(69名)、女性が41.5%(49名)で、年齢階級別では1歳(27.1%:32名)、4歳(14.4%:17名)、2歳(12.7%:15名)の順に多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第21週は過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮崎県、富山県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の第22週は前週から増加し1.11となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(3.25/定点)で最多で、同区の8歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第22週までの累積報告数(n=222)によると、性別では男性が56.3%(125名)、女性が43.7%(97名)で、年齢階級別では5歳(16.7%:57名)、6歳(13.5%:30名)、4歳及び7歳(共に12.6%:28名)の順に多くなっています。

